

## 新潟支援報告書

所属名	生活文化観光局観光・国際部振興課	報告者	檀 特 竜 王 ( 4 0 歳 )
派遣期間	1 0 月 2 9 日 ( 金 ) ~ 1 1 月 4 日 ( 木 )		
派遣先	市町名	川口町	
	場所・部署等		
支援活動 ( 箇条書き )	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 0 月 2 9 ~ 3 0 日は、2 4 時間体制で兵庫県職員とともに、現地の情報を収集し、新潟県に持ち帰り報告することが任務であった。特に、川口町の情報が不足していた。到着後、小規模な避難所と大規模な避難所を訪問し、住民の声を聞いた。未だ電気が復旧しておらず、1 6 時半を過ぎると、暗闇がおとずれた。テントのなかに災害対策本部があり、幹部職員が電話とマスコミの対応に追われていた。復旧に向けた実践的な災害対策本部が立ち上がっておらず、神戸市の震災時の組織図も参考にしながら、川口町版の災害対策チーム案ができていった。3 0 日に、新潟県職員、兵庫県職員とともに新潟県庁に戻り、厳しい状況を報告し、翌日から新潟県職員 1 5 名がサポートチームとして川口町入りすることになった。</li> <li>・ 1 0 月 3 1 日 ~ 1 1 月 3 日にかけては、新潟県のサポートチームの一員となり、尼崎市職員とともに、避難所の声を聞きながら、り災証明書の作成など阪神・淡路大震災の経験に基づいた助言を行なった。毎晩、川口町災害対策本部と新潟県サポートチームの会議に参加した。</li> <li>・ 1 1 月 3 日には、2 日から合流した神戸市職員とともに、町長や仮設住宅建設担当者との意見交換を行った。また、NHKの取材を受けた。</li> </ul> <p>( トピック : 1 0 月 3 0 日 : 阪神・淡路大震災で世話になったボランティアが川口町入りし、川口町災害ボランティアセンター発足、1 1 月 1 日 : 役場前に仮設事務所建設、災害対策広報第 1 号発行、1 1 月 2 日 : 仮設住宅の募集方針決定、3 ~ 4 日 : 募集 )</p>		
課題を含めた感想等	<p>神戸市の課題としては、          応援する職員が持参するマニュアルを整える必要がある。( 尼崎市職員が持参していたので、習うとよいのではないかと。例えば、り災証明書の様式や失敗談が体系的にファイリングされていた。 )</p> <p>寝袋等自活できる道具を装備していかなければならない。( 初日は、毛布も寝袋もなく、本当に寒かった。そのかわり、被災者の苦勞を肌で感じた。 )</p> <p>多数のサポートチームが現地入りする中で、神戸市の腕章は身分を明らかにするために必要である。</p> <p>震災当時の資料が、なかなか出てこないという状況があったと思うので、震災関連の資料を一箇所に集めた閲覧室を庁内に設けるとよいと思った。( 震災を体験した職員も年々減っていくので、文書による伝承と同時に、震災の語り部の神戸市職員 O B 版が考えられる。 )</p> <p>自治体共通の課題として、危機管理体制の整備、初動対応の重要性を改めて認識させられた。</p>		